

授業科目	授業概要	開講日	形態
アジア美術史特論B	日本絵画史について各時代の作品を取り上げ、鑑賞の方法を身につけながら考察を深める。	不定期	対面
日本中世史特論A	本講義では、近年の研究動向や成果を踏まえて、日本中世社会の実像に迫ることを試みる。本年度は、12～13世紀（平安後期～鎌倉期）の武士の様相について、特に西国社会を舞台に検討する。	木曜・5-6限	対面
文化財学特論A（木簡学）	平城宮跡の発掘調査で初めて木簡が出土してから60年以上が経ち、木簡は今や古代史研究に欠かせない基本史料の一つである。木簡研究が始まった当初に示された木簡学の理念が定着してきた一方で、従来の枠組みにとらわれない新しい視点の獲得が求められている。このような状況をふまえて、日本の木簡学のアップデートを目指す。	水曜・午後	対面
文化財学特論B（東アジア考古学）	日本の古代文化は、東アジア諸国からさまざまな影響を受けて成立してきた。本講義では、日本文化に影響を与えたと考えられる中国や韓国の考古学的研究を中心に、紀元前から古代までの日本の文化と比較検討し、彼此の間で具体的にどの部分がどのような影響関係があるかを明らかにしていく。主に考古学の研究成果を検討の中心とするが、必要に応じて、歴史学、美術史、建築史等の関連諸科学の成果も参照する。	水曜・午後	対面
文化財学特論C（歴史考古学）	歴史考古学の対象として、飛鳥時代から近世にいたる土器、陶磁器、土製品について、実際の遺物を教材に講義をおこなう。縄文時代以降、現代に至るまで、土器・土製品は人間の生活に必要な不可欠な道具である。そのため、遺跡から普遍的に出土する土器は、遺構の年代を決めるうえで、重要な指標となる遺物である。実際に南都の寺院から出土した土器の編年作業を、遺物に則して解説し、実践的な講義内容としたい。	水曜・午後	対面
文化財学特論D（日本古典文化資料論）	日本の古典資料のなかで大きなウェイトを占めるものに、仏教資料がある。写経や聖教といった典籍はその代表と言えるが、その内容だけでなく、どのような形態をしているのか、そしてどのようにそれらが作成され、伝来してきたのかという背景も、当時の文化や社会を理解する上では必要である。本講義では、実際の資料（文化財）事例をもとに、基礎的な知識から個別の資料まで、総合的な情報を理解していく。また、実際の資料をもとに、伝来情報などを読み取る方法を習得する。	水曜・5-6限	対面
文化財学特論E（古代文化学）	文化財保護法の改正とその後の施策について、保存と活用に関する国、都道府県、基礎自治体の取り組み事例を題材として理解を深める。	金曜・9-10限	ハイブリッド